学校番号	３０１３

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「改訂版　日本史Ａ」　（山川出版社）						
副教材等	図説日本史通覧　（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸に対しての感覚を養ってもらいたい。
・歴史的事象に「なぜ」という視点を持ってもらいたい。
・歴史を背景とした世界各国の諸事情を踏まえ、日本の在り方について考察を深めてもらいたい。

２　学習の到達目標

・世界史的な視野に立ちながら、日本の歴史を国際環境と関係づけながら考察する。
・諸資料をもとに歴史事象についての考察を深める。
・時代的背景として政治、経済、文化、対外関係など総合的な歴史的思考力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する公民としての責務を果たそうとしているか。	開国以前と以後の日本を比較し、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を国際環境と関連して考えることができているか。	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしているか。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けているか。
評価方法	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第1章　開国と明治維新	・日本開国の世界史的背景に留意しながら、開国の衝撃を契機として幕末の政治的激動が進行した過程を理解する。倒幕派の形成から幕府の滅亡にいたる政治過程と、明治新政府による中央主権体制の確立過程について理解する。 ・藩閥専制政府のもとで実行された一連の近代化政策の意義を、その問題点とあわせて考察する。	○	○	 ○	○ ○	a. アヘン戦争に象徴されるアジアの激動を世界史的視野から捉え、開国から幕府の滅亡にいたる過程、および新政府の政策について関心をもち、それらを意欲的に追究する。 b. 尊王攘夷や公武合体などの立場を薩摩藩・長州藩の動向を主軸に、江戸幕府が倒れていく過程を捉え、新政府の樹立と、新政府がとった、富国強兵。殖産興業をスローガンとする政策とその結果について多面的・多角的に考察する。 c. 浮世絵や風刺漫画などから明治維新、文明開化などの様子を読み取ったり図表などにまとめたりする。 d. 日米和親条約・日米修好通商条約の締結と、開国が与えた影響を理解し、その知識を身に付ける。また、討幕運動の特徴を理解する。 d. 版籍奉還と廃藩置県を経て、中央集権体制が確立したこと。そして、「富国強兵」を掲げる新政府のさまざまな政策の特徴を理解する。また、明治初期の外交について、国境の確定や不平等条約の改正などの視点で捉える。	以下の内容で、abcdを総合的に判断する。 提出課題 定期考査 授業態度

	第2章　立憲国家の成立	・立憲政をめぐる自由民権運動と藩閥政府との対抗関係の歴史を考察し、成立した明治憲法体制の特質を理解する ・日清・日露の両戦争を世界史的背景をもとに理解し、この間に進行した政治構造の変化について考察する。 ・日清・日露の両戦争をへて日本がどのような国際的立場を獲得したのか、その問題点とともに考える。 ・近代文化の草創期の特質を理解する。欧米文化の模倣と導入からはじまった日本の近代文化がどのように展開したのか、様々な分野について考察する。	 ○ ○ ○	○ ○ ○ 	 ○ 	○ ○ ○ ○	a. 日清、日露戦争とその前後のアジアや欧米諸国との関係の推移、大正デモクラシーや民衆の台頭などに関心をもち、意欲的に追究する。 b. 藩閥政治や国会の開設を求める運動など日本の国内事情や、中国の半植民地化など当時の国際関係に着目しつつ、日清、日露戦争の経過やその結果について考察し、適切に表現する。 c. 条約改正交渉の経緯と国内世論の動向、改正交渉の成否を資料にもとづいて理解する。 d. 自由民権運動の内容を理解し、激化への過程を捉え、その知識を身に付ける。また、大日本帝国憲法の特徴を日本国憲法との比較のなかで捉え、立憲政の意義と、初期議会の動向を捉える。 d. 日清・日露戦争のそれぞれの性格と特徴を理解し、その知識を身に付ける。 d. 明治の思想と信教、学問・科学の発達、ジャーナリズム、文学、芸術の観点で、日本の近代文化草創期の特徴を理解する。	以下の内容で、abcdを総合的に判断する。 提出課題 定期考査 授業態度

後期	第3章 第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦前夜の国際関係について地理的観点を踏まえて理解する。 ・第一次世界大戦後の国際秩序について理解し、協調外交について考察を深める。 ・大戦景気と社会運動の勃興の内容を理解し、経済社会の変容と大正期の市民文化の特色について理解する。	○	○	○	○	a. 第一次世界大戦とその影響などに関心をもち、意欲的に追究する。 b. 第一次世界大戦前夜の国際関係について地理的関係を踏まえて考察する。 c. 資料や図表などから第一次世界大戦後の国内産業の様子と市民生活について考察を深める。 d. ヴェルサイユ体制、ワシントン体制の内容を捉え、第一次世界大戦後の国際秩序について考察し、日本の外交政策についての理解を深める。	以下の内容で、abcdを総合的に判断する。 提出課題 定期考査 授業態度
	第4章 昭和の恐慌と満州事変	・戦後恐慌以来あいつぐ恐慌の原因と政府の対応、恐慌の影響などについて理解する。 ・満州事変が日本の国際的孤立をまねいたと同時に、政党政治が終焉し軍国主義への道に進む契機となったことを理解する。 ・軍国主義化が進展する中で日中戦争が勃発し、戦争の長期化が軍国主義のもとで総動員体制を進行させたことと枢軸体制の形成に向かわせたことについて理解を深める。	○ ○ ○	○ ○		○ ○	a. 満州事変の経緯を学び、軍部の政治的発言力の増大と政党政治崩壊の関係について考察を深める。また、日中戦争勃発の経緯と、政府の対応による長期化の経緯についての関心を高め、意欲的に探究する。 b. あいつぐ恐慌の具体的な内容を整理して理解する。また、日本国内の政治、経済の状況と世界の動向を関連付けながら、日本のおこなった戦争の性格について考察し、それらの経緯を適切に表現する。 d. 戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、昭和恐慌の原因と恐慌の内容を理解し、その後の政治に与えた影響について理解を深める。また、経済的な行き詰まりと軍国主義への過程を関連付け、日中戦争の勃発に至る経緯を理解する。	以下の内容で、abcdを総合的に判断する。 提出課題 定期考査 授業態度

	第5章　第二次世界大戦と日本	・アジア・太平洋戦争の開戦にいたる経緯を当時の国際情勢とあわせて理解するとともに、アジア・太平洋戦争の現実について考える。 ・戦時下の国民生活の実態について具体的な理解を深める。	○ ○		○ ○	○	a. 第二次世界大戦へいたる経過とその結果、アジア近隣諸国との関係などに関心をもち、意欲的に探究する。 b. アジア・太平洋戦争の開戦にいたる経緯について、さまざまな視点から考察を深め、歴史上の重要な転機を捉える。 c. 地域に残る戦争遺跡を訪ねるなどして第2次世界大戦に関する諸資料を収集し、戦争の様子を調べるための情報を適切に選択する。また、国民生活や文化など各方面にわたる国家統制の強まりについて、諸資料を活用して、具体的な事例に則り考察を深める。 d. 戦争に傾斜していく経過、そして戦争がどのような性格であったかを理解し、その知識を身に付ける。戦時中の日本とアジア諸国の関係を理解し、その知識を身に付ける。	以下の内容で、abcdを総合的に判断する。 提出課題 定期考査 授業態度

	第6章　占領下の日本	・非軍事化と民主化を要とする占領政策が戦後日本の政治・社会・経済の基礎を築いたこと、国民が積極的に受け入れることによって戦後改革が実現したことを理解する。 ・冷戦構造の深まりが占領政策を転換させ、サンフランシスコ講和と安保条約によって現在までおよぶ戦後日本の対外関係の基軸が成立したことを理解する。	○			○	a：戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b：大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。 c：新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d：戦後は基本的人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度

	第7章　経済繁栄と保守長期政権	・高度経済成長をとげる過程で日本社会が大きく変貌したこと、また、アメリカのアジア政策に協力することによって日本は国際的地位を高めたことについて理解する。	○			○	a. 経済の発展や国際社会における日本の役割などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b.　高度経済成長期の日本がかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c. 高度経済成長期の国民之生活を、当時の新聞や映像から考察している。 d.　日本の敗戦から高度経済成長期に至る過程を理解し、それをもとに現代日本のあり方を考察しようとしている。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度
	第8章　現代の世界と日本	・高度経済成長の終わりとともに、経済摩擦などの新たな課題が生まれ、55年体制の崩壊にいたる政治構造の変化が生じたことを考察する。 ・冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	○			○	a. 現代日本のかかえる課題などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b. 現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c.　年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。 d. 戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。２１世紀の展望をもつ。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。